

明海大学浦安キャンパス教育後援会会報



MEIKAI UNIVERSITY

風潮

平成17年1月20日発行 (年2回刊)

〈教育後援会だより〉

しおかぜ

発行/明海大学浦安キャンパス教育後援会
〒279-8550 千葉県浦安市明海8
電話 047-355-5112 FAX 047-355-2871
http://www.meikai-koenkai.com/

大学と家庭が一体となって、

3年生の父母を対象に、就職懇談会開催！

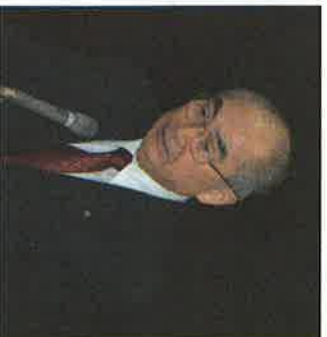
10月23日(日)、浦安キャンパスで、3年生を対象とした就職懇談会が開催された。昨年(平成16年)に続き2回目の開催で、1都6県から230人の父母と学生が参加した。

まず、横濱教育後援会としてほしいと思います。長が、「景気の回復傾向を受けて採用数は増加している。しかし高倉翔学長が、「父のみなさんには、就職に強い大学として明海大学に期待していただいていると思います。学生がうまくその仕組みにつけていく。大学、父母が一体となり就職戦線を考えていかなければいけないと考えています。今日そのきっかけをキャリアサポートセンターで立ち上げるだけでなく、学習意欲や生きる意欲を失っていないような学生の意識や行動を養っていくということも含めて、就職サポートを行っております。だからといって大学にすべておまかせというだけではなく、大学と家庭が手をたずさえて、日本の将来を築いていく若者を育てていきたいと思います」と大学を代表してスピーチした。



横濱孝雄会長

続いて、今年4月に開設されたキャリアサポートセンターの下田直樹センター長が、カリキュラムに導入されているD P P パソコンプログラムやSD



高倉翔学長

ティンクを行っている。現代職業工房主宰の菊地信一氏が、「進路決定に際して必要な家族のサポート」と題して講演を行った。菊地氏は本学の就職講座の講師も務めていて、本学の学生の実態をふまえた上で、エントリーシートの書き方や面接の対策など、企業側の意図も交えてわかりやすく話してくれた。最後は、すでに就職が内定した学生たちによるパネルディスカッションが行われ、採用に関するコンサル



下田直樹センター長



菊地信一氏

れ、いつ頃から就職を意識したのか、面接ではどんなアピールをしたのか、内定の時期からスタートでも十分間に合うことがわかりました。でも、エントリーシートを考えたことがあるか、就職について親と話をしたか、といったテーマに就いて、学生たちがそれぞれ体験を話した。

【参加者の感想】
●インターンシップを体験できる人数が少ないと思う。らというアトパスができて、本人が希望する道を決めかねているようです。フリータにはなつてほしくない学生にはどのようなポイントがあるのか聞きたかった(男子)
●パナリズム(不動産学部3年) 最後は、すでに就職が内定した学生たちによるパネルディスカッションが行われ、採用に関するコンサルから採用に関するコンサルについて説明した。



就職内定者の学生

また、横濱教育後援会としてほしいと思います。長が、「景気の回復傾向を受けて採用数は増加している。しかし高倉翔学長が、「父のみなさんには、就職に強い大学として明海大学に期待していただいていると思います。学生がうまくその仕組みにつけていく。大学、父母が一体となり就職戦線を考えていかなければいけないと考えています。今日そのきっかけをキャリアサポートセンターで立ち上げるだけでなく、学習意欲や生きる意欲を失っていないような学生の意識や行動を養っていくということも含めて、就職サポートを行っております。だからといって大学にすべておまかせというだけではなく、大学と家庭が手をたずさえて、日本の将来を築いていく若者を育てていきたいと思います」と大学を代表してスピーチした。



続いて、今年4月に開設されたキャリアサポートセンターの下田直樹センター長が、カリキュラムに導入されているD P P パソコンプログラムやSD

また、横濱教育後援会としてほしいと思います。長が、「景気の回復傾向を受けて採用数は増加している。しかし高倉翔学長が、「父のみなさんには、就職に強い大学として明海大学に期待していただいていると思います。学生がうまくその仕組みにつけていく。大学、父母が一体となり就職戦線を考えていかなければいけないと考えています。今日そのきっかけをキャリアサポートセンターで立ち上げるだけでなく、学習意欲や生きる意欲を失っていないような学生の意識や行動を養っていくということも含めて、就職サポートを行っております。だからといって大学にすべておまかせというだけではなく、大学と家庭が手をたずさえて、日本の将来を築いていく若者を育てていきたいと思います」と大学を代表してスピーチした。

続いて、今年4月に開設されたキャリアサポートセンターの下田直樹センター長が、カリキュラムに導入されているD P P パソコンプログラムやSD

就職懇談会アンケート(回収数141)
日本語学科3人・英米語学科15人・中国語学科9人
経済学科34人・不動産学科9人・無記名74人

1. 講演について
ア. 非常に有意義だった 7.32.6%
イ. あまりよくわからなかった 7.64.5%
2. パネルディスカッションについて
ア. 興味深かった 7.68.7%
イ. 何も感しなかった 7.0.7%
イ. 為にならなかった 7.1.4%
3. 就職について
ア. 親子でよく相談する 7.22.3%
イ. 本人に全てまかせている 7.68.8%
イ. 無関心 7.1.2%
4. ご子弟が就職を希望している地域は
ア. 地元 68%
イ. 東京 29%
ウ. その他 14%
5. コリナーについて、どうお考えですか
ア. 選けたい 98.5%
イ. すずめている 0%
ウ. 仕方がない 1.5%
6. 大学からの情報についてのどのようなお考えですか
ア. 少ない 49.6%
イ. 多い 1.4%
ウ. 適量である 37.5%
無回答 11.5%
7. 就職懇談会の開催時期は、いつ頃がよいと思いますか
ア. 6月頃 36.1%
イ. 10月頃 54.6%
ウ. 2月頃 9.3%

A. 今回の就職懇談会企画について全体的な感想をお聞かせください
大変参考になりました。声が小さく聞きづらかった。ぜひ、学生にもよく聞いてほしいと思います。企業を選ぶときの基準が時代によって変わってきていることを知ることができて、子どもの話を素直に聞いて聞く耳を持つようになりました。菊地先生の話はとても参考になり、もっと時間をとってほしいと思います。大変感謝深かったです。良い企画でした。このような企画を複数回、早い時期(2年生時)に開催したい。親を相手に話をすることも思いが、もっと学生に世の中の厳しさを教えてほしい。就職の面接のことなどいろいろわかり有意義だと思う。知らなかったことがよく分かりました。子どもと話し合えると思う。学生にもこのような機会に、どんどん参加してもらいたいと思った。学生のパナリズムスカッシュには有意義だ。5人はすばらしい学生たちだと思った

B. 進学・就職について今後教育後援会としてどのような企画事業があらうか
企業の人事担当者を呼び、意見を聞く機会を検討。学生が2年生の時にこのような企画を、パナリズムスカッシュによる学生に対して行う。さまざまなジャンルインカウンターによる就職面接(大企業)や、大学独自の資格制度を設け必須科目に組み込む

C. 教育後援会以外の事業についての要望は
奨学金を受けたいが、もう少し額を増やしてほしい
就職率を上げ、他校の模範となっていきたい

2005年の新春を迎えるにあたり、教育後援会ことかでき、安心して活動の声を多く聞くことかできる。心から

お慶び申し上げます。昨年(平成16年)は、相次ぐ台風の襲撃により、教育後援会会員依然厳しい就職状況を学生の中に被災した方がただけではなく、大学と父母と一緒に考え取り組んでいかなければいけないと思いを新たにしました。2002年度の教育後援会費収入と事業費支出のバランスをとるために、昨年度から教員に渡り事業の見直しについて会議を開き検討を加え、役員会にも2度提案され、審議を継続してまいりました。

9月上旬の3日、間学友会サマリーセッションに教育後援会の役員4名と事務局長が参加し、分科会にも出席しました。今年度の「未来の明海大学」について、04年度から3年間で事業の見直しを行い、収入と事業費支出のバランスをとり、回収率を向上させることについて、理事の意向を伺い、役員会にて承認され、役員会にてその執行計画を作成してまいります。

方、意見をきくと人前で話すことは当たり前の事ですが、非常に新鮮に感じました。9月から11月にかけて地区懇談会を開催されました。6会場(約500人)の方々にご出席いただき充力いただきました。宮田理事長、増岡常務理事、高倉学長に感謝申し上げます。次ページに見やすく見開き掲載いたしました。そのご協力に心から感謝申し上げます。参加した父母の皆さんから大学の緊密

2005年の新春を迎えるにあたり、教育後援会ことかでき、安心して活動の声を多く聞くことかできる。心からお慶び申し上げます。昨年(平成16年)は、相次ぐ台風の襲撃により、教育後援会会員依然厳しい就職状況を学生の中に被災した方がただけではなく、大学と父母と一緒に考え取り組んでいかなければいけないと思いを新たにしました。2002年度の教育後援会費収入と事業費支出のバランスをとるために、昨年度から教員に渡り事業の見直しについて会議を開き検討を加え、役員会にも2度提案され、審議を継続してまいりました。

新年のご挨拶

明海大学浦安キャンパス教育後援会 会長 横濱孝雄

7カ月間を振り返り報告とコメントを述べさせていただきます。6月からの担当委員会での活動は、原則として、毎年6月決算計上が厳しい現状にあってまいりました。事業費収入と事業費支出のバランスをとるために、昨年度から教員に渡り事業の見直しについて会議を開き検討を加え、役員会にも2度提案され、審議を継続してまいりました。

2005年の新春を迎えるにあたり、教育後援会ことかでき、安心して活動の声を多く聞くことかできる。心からお慶び申し上げます。昨年(平成16年)は、相次ぐ台風の襲撃により、教育後援会会員依然厳しい就職状況を学生の中に被災した方がただけではなく、大学と父母と一緒に考え取り組んでいかなければいけないと思いを新たにしました。2002年度の教育後援会費収入と事業費支出のバランスをとるために、昨年度から教員に渡り事業の見直しについて会議を開き検討を加え、役員会にも2度提案され、審議を継続してまいりました。



宮田 侑理 理事長

鈴木：2004年からの国立大学の独立行政法人化、少子化といった問題もありまして、ますます大学間の競争が激しくなるという中で、大学側は「選ばれる大学づくり」についてどう考えて、大きな流れに流されたいと思っております。

高倉：社会は変化しつつありますが、その変化にどうやって耐えていくかということが大事なことだと思います。社会変化する要因として、生きる方向というのを考えていくかという大きな流れに流されたいと思っております。



横濱 孝雄 教育後援会会長

未来社会に 適応できる 実学志向の大学へ

少子化による18歳人口の減少に伴い、大学の受験志願者数は減少し、定員割れの大学が出てきたり、規制緩和による国立大学の法人化など、昨今の大学を取り巻く社会はたいへん厳しいものとなっている。本学では変化の激しい時代を生き残るために、さまざまな取り組みに着手している。今回は宮田理事長、高倉学長ら大学の経営陣にご出席いただき、「明海大学の新しい歩み」をテーマに、大いに語り合っていた。

2005年
新春座談会

社会の変化に応えられる大学を目指して

明海大学の新しい歩み

けないです。

富田：大学自体もその社会の変化に対応していく能力を持つていないためです。そういう意味では大学は、変化に対応するのが非常に弱い、今までは変化に対して、今までは変化に対応して、今、変わる努力をしています。今の組織であつたわけです。今の高倉：まず必要なのは、大学の意識を変革することで、授業料を払って買いたいという商品が研究ではなくて、良質な教育です。良質な教育をどう保証するか、その責任者の強力なリーダーシップとハラスメントが問われているのだと思います。

富田：一人ひとりがみんな研究者と自覚している。そういった先生方に、「大学は教育機関である」という意識を持ってもらわねばなりません。

研究を無視しているのではありません。研究に裏付けられた教育でない話にならないのはもちろんです。研究は教育の必要条件ですが、十分条件ではないという認識で、教育と研究の関係を理解していただければよいでしょう。

増岡：社会に対応するためには、何をやるのか：基本的に教育の質の向上を目指すという、時代に対しての適応力をもった適応力に、今、何をやるのか：基本的に身に付けていくかというところが教育に求められます。つまり、実学志向の教育に向かうべきだという認識を持たなければい

た、ということになりかねません。

高倉：社会は変化しつつありますが、その変化にどうやって耐えていくかということが大事なことだと思います。社会変化する要因として、生きる方向というのを考えていくかという大きな流れに流されたいと思っております。

富田：社会は常に変わるわけ、その変化にどうやって耐えていくかということが大事なことだと思います。社会変化する要因として、生きる方向というのを考えていくかという大きな流れに流されたいと思っております。

教育の質の向上を 目指して

充実、それから選ばれる大学作りとやってきました。来年度は学部長が各学部の業務執行計画を作つて、期限を決めて方法を決めて、達成度を評価するということが提唱されています。

高倉：大学の質の保証：継続していきけるような基盤と手段を、大学の4年間にどうやって形成していくかも、重要なことでしょう。

富田：カリキュラムを改革して、学部、学科を越えた単位取得を可能にしたことにより、学生にグローバルな社会人になってほしいと

思っています。研究者と自覚している。そういった先生方に、「大学は教育機関である」という意識を持ってもらわねばなりません。

研究を無視しているのではありません。研究に裏付けられた教育でない話にならないのはもちろんです。研究は教育の必要条件ですが、十分条件ではないという認識で、教育と研究の関係を理解していただければよいでしょう。

増岡：社会に対応するためには、何をやるのか：基本的に教育の質の向上を目指すという、時代に対しての適応力をもった適応力に、今、何をやるのか：基本的に身に付けていくかというところが教育に求められます。つまり、実学志向の教育に向かうべきだという認識を持たなければい

た、ということになりかねません。

高倉：社会は変化しつつありますが、その変化にどうやって耐えていくかということが大事なことだと思います。社会変化する要因として、生きる方向というのを考えていくかという大きな流れに流されたいと思っております。

富田：一人ひとりがみんな研究者と自覚している。そういった先生方に、「大学は教育機関である」という意識を持ってもらわねばなりません。

研究を無視しているのではありません。研究に裏付けられた教育でない話にならないのはもちろんです。研究は教育の必要条件ですが、十分条件ではないという認識で、教育と研究の関係を理解していただければよいでしょう。

増岡：社会に対応するためには、何をやるのか：基本的に教育の質の向上を目指すという、時代に対しての適応力をもった適応力に、今、何をやるのか：基本的に身に付けていくかというところが教育に求められます。つまり、実学志向の教育に向かうべきだという認識を持たなければい

た、ということになりかねません。

高倉：社会は変化しつつありますが、その変化にどうやって耐えていくかということが大事なことだと思います。社会変化する要因として、生きる方向というのを考えていくかという大きな流れに流されたいと思っております。

富田：一人ひとりがみんな研究者と自覚している。そういった先生方に、「大学は教育機関である」という意識を持ってもらわねばなりません。

研究を無視しているのではありません。研究に裏付けられた教育でない話にならないのはもちろんです。研究は教育の必要条件ですが、十分条件ではないという認識で、教育と研究の関係を理解していただければよいでしょう。

増岡：社会に対応するためには、何をやるのか：基本的に教育の質の向上を目指すという、時代に対しての適応力をもった適応力に、今、何をやるのか：基本的に身に付けていくかというところが教育に求められます。つまり、実学志向の教育に向かうべきだという認識を持たなければい

た、ということになりかねません。

高倉：社会は変化しつつありますが、その変化にどうやって耐えていくかということが大事なことだと思います。社会変化する要因として、生きる方向というのを考えていくかという大きな流れに流されたいと思っております。

富田：一人ひとりがみんな研究者と自覚している。そういった先生方に、「大学は教育機関である」という意識を持ってもらわねばなりません。

研究を無視しているのではありません。研究に裏付けられた教育でない話にならないのはもちろんです。研究は教育の必要条件ですが、十分条件ではないという認識で、教育と研究の関係を理解していただければよいでしょう。

増岡：社会に対応するためには、何をやるのか：基本的に教育の質の向上を目指すという、時代に対しての適応力をもった適応力に、今、何をやるのか：基本的に身に付けていくかというところが教育に求められます。つまり、実学志向の教育に向かうべきだという認識を持たなければい

は誰なのか、ということになると思います。まずは学生、そして、未来社会に適応したために、生涯学習の観点から、就職すれば企業や、歯学部であれば患者さんをもつて、そして地域の人も含まれます。利害関係人であるステークホルダーが、本学に満足しているのか。

富田：一人ひとりがみんな研究者と自覚している。そういった先生方に、「大学は教育機関である」という意識を持ってもらわねばなりません。

高倉：社会は変化しつつありますが、その変化にどうやって耐えていくかということが大事なことだと思います。社会変化する要因として、生きる方向というのを考えていくかという大きな流れに流されたいと思っております。

富田：一人ひとりがみんな研究者と自覚している。そういった先生方に、「大学は教育機関である」という意識を持ってもらわねばなりません。

研究を無視しているのではありません。研究に裏付けられた教育でない話にならないのはもちろんです。研究は教育の必要条件ですが、十分条件ではないという認識で、教育と研究の関係を理解していただければよいでしょう。

増岡：社会に対応するためには、何をやるのか：基本的に教育の質の向上を目指すという、時代に対しての適応力をもった適応力に、今、何をやるのか：基本的に身に付けていくかというところが教育に求められます。つまり、実学志向の教育に向かうべきだという認識を持たなければい

た、ということになりかねません。

高倉：社会は変化しつつありますが、その変化にどうやって耐えていくかということが大事なことだと思います。社会変化する要因として、生きる方向というのを考えていくかという大きな流れに流されたいと思っております。

富田：一人ひとりがみんな研究者と自覚している。そういった先生方に、「大学は教育機関である」という意識を持ってもらわねばなりません。

研究を無視しているのではありません。研究に裏付けられた教育でない話にならないのはもちろんです。研究は教育の必要条件ですが、十分条件ではないという認識で、教育と研究の関係を理解していただければよいでしょう。

増岡：社会に対応するためには、何をやるのか：基本的に教育の質の向上を目指すという、時代に対しての適応力をもった適応力に、今、何をやるのか：基本的に身に付けていくかというところが教育に求められます。つまり、実学志向の教育に向かうべきだという認識を持たなければい

た、ということになりかねません。

高倉：社会は変化しつつありますが、その変化にどうやって耐えていくかということが大事なことだと思います。社会変化する要因として、生きる方向というのを考えていくかという大きな流れに流されたいと思っております。

富田：一人ひとりがみんな研究者と自覚している。そういった先生方に、「大学は教育機関である」という意識を持ってもらわねばなりません。

研究を無視しているのではありません。研究に裏付けられた教育でない話にならないのはもちろんです。研究は教育の必要条件ですが、十分条件ではないという認識で、教育と研究の関係を理解していただければよいでしょう。

増岡：社会に対応するためには、何をやるのか：基本的に教育の質の向上を目指すという、時代に対しての適応力をもった適応力に、今、何をやるのか：基本的に身に付けていくかというところが教育に求められます。つまり、実学志向の教育に向かうべきだという認識を持たなければい

た、ということになりかねません。

高倉：社会は変化しつつありますが、その変化にどうやって耐えていくかということが大事なことだと思います。社会変化する要因として、生きる方向というのを考えていくかという大きな流れに流されたいと思っております。

富田：一人ひとりがみんな研究者と自覚している。そういった先生方に、「大学は教育機関である」という意識を持ってもらわねばなりません。

研究を無視しているのではありません。研究に裏付けられた教育でない話にならないのはもちろんです。研究は教育の必要条件ですが、十分条件ではないという認識で、教育と研究の関係を理解していただければよいでしょう。

増岡：社会に対応するためには、何をやるのか：基本的に教育の質の向上を目指すという、時代に対しての適応力をもった適応力に、今、何をやるのか：基本的に身に付けていくかというところが教育に求められます。つまり、実学志向の教育に向かうべきだという認識を持たなければい

る制動装置はあるかもしれないが、アクセルがない。ボトムダウンとはいませ

増岡：一昨年に国から観光立国政策が提言されました。日本の場合には海外旅行に出る人は多いのですが、外国から来る人が少ないという

にオフサイを置き、強力で主張するプレゼンテーション

なリターンシップを發揮できるような体制に変えてい

ます。偏差値教育の中では、点が

教がよければそれでよいと

う時代もあつたのですが、それだけで今は生きてい

ただけではなくて、大学を出

てきた教育だと私たちが

思っています。研究と自覚している。そういった先生方に、「大学は教育機関である」という意識を持ってもらわねばなりません。

研究を無視しているのではありません。研究に裏付けられた教育でない話にならないのはもちろんです。研究は教育の必要条件ですが、十分条件ではないという認識で、教育と研究の関係を理解していただければよいでしょう。

増岡：社会に対応するためには、何をやるのか：基本的に教育の質の向上を目指すという、時代に対しての適応力をもった適応力に、今、何をやるのか：基本的に身に付けていくかというところが教育に求められます。つまり、実学志向の教育に向かうべきだという認識を持たなければい

た、ということになりかねません。

高倉：社会は変化しつつありますが、その変化にどうやって耐えていくかということが大事なことだと思います。社会変化する要因として、生きる方向というのを考えていくかという大きな流れに流されたいと思っております。

富田：一人ひとりがみんな研究者と自覚している。そういった先生方に、「大学は教育機関である」という意識を持ってもらわねばなりません。

研究を無視しているのではありません。研究に裏付けられた教育でない話にならないのはもちろんです。研究は教育の必要条件ですが、十分条件ではないという認識で、教育と研究の関係を理解していただければよいでしょう。

増岡：社会に対応するためには、何をやるのか：基本的に教育の質の向上を目指すという、時代に対しての適応力をもった適応力に、今、何をやるのか：基本的に身に付けていくかというところが教育に求められます。つまり、実学志向の教育に向かうべきだという認識を持たなければい

た、ということになりかねません。

高倉：社会は変化しつつありますが、その変化にどうやって耐えていくかということが大事なことだと思います。社会変化する要因として、生きる方向というのを考えていくかという大きな流れに流されたいと思っております。

富田：一人ひとりがみんな研究者と自覚している。そういった先生方に、「大学は教育機関である」という意識を持ってもらわねばなりません。

研究を無視しているのではありません。研究に裏付けられた教育でない話にならないのはもちろんです。研究は教育の必要条件ですが、十分条件ではないという認識で、教育と研究の関係を理解していただければよいでしょう。

が、この学部についてお話

いただけませんか。

増岡：一昨年に国から観光立国政策が提言されました。日本の場合には海外旅行に出る人は多いのですが、外国から来る人が少ないという

にオフサイを置き、強力で主張するプレゼンテーション

なリターンシップを發揮できるような体制に変えてい

ます。偏差値教育の中では、点が

教がよければそれでよいと

う時代もあつたのですが、それだけで今は生きてい

ただけではなくて、大学を出

てきた教育だと私たちが

思っています。研究と自覚している。そういった先生方に、「大学は教育機関である」という意識を持ってもらわねばなりません。

研究を無視しているのではありません。研究に裏付けられた教育でない話にならないのはもちろんです。研究は教育の必要条件ですが、十分条件ではないという認識で、教育と研究の関係を理解していただければよいでしょう。

増岡：社会に対応するためには、何をやるのか：基本的に教育の質の向上を目指すという、時代に対しての適応力をもった適応力に、今、何をやるのか：基本的に身に付けていくかというところが教育に求められます。つまり、実学志向の教育に向かうべきだという認識を持たなければい

た、ということになりかねません。

高倉：社会は変化しつつありますが、その変化にどうやって耐えていくかということが大事なことだと思います。社会変化する要因として、生きる方向というのを考えていくかという大きな流れに流されたいと思っております。

富田：一人ひとりがみんな研究者と自覚している。そういった先生方に、「大学は教育機関である」という意識を持ってもらわねばなりません。

研究を無視しているのではありません。研究に裏付けられた教育でない話にならないのはもちろんです。研究は教育の必要条件ですが、十分条件ではないという認識で、教育と研究の関係を理解していただければよいでしょう。

増岡：社会に対応するためには、何をやるのか：基本的に教育の質の向上を目指すという、時代に対しての適応力をもった適応力に、今、何をやるのか：基本的に身に付けていくかというところが教育に求められます。つまり、実学志向の教育に向かうべきだという認識を持たなければい

た、ということになりかねません。

高倉：社会は変化しつつありますが、その変化にどうやって耐えていくかということが大事なことだと思います。社会変化する要因として、生きる方向というのを考えていくかという大きな流れに流されたいと思っております。

富田：一人ひとりがみんな研究者と自覚している。そういった先生方に、「大学は教育機関である」という意識を持ってもらわねばなりません。

社会の要請に応えて 新学部開設

鈴木：2005年4月1日からホスピタリティ・ツリー

だつたわけで、これをどう

社会情勢：つまり社会変化

わけです。これも一つの社

と、ということが問題になつた

学部・学科は日本にはない

ですが、これまでにそんな

ての教育・研究が必要な

めには、大学も観光につい

要だということ、そのた

に対応する人材の育成が必

ことではありません。それ

光客を増やせばいいという

これは単に海外からの観

わけです。

ということから提言された

化を計らなければいけない

こと、もつとグローバル

から来る人が少ないという

していく仕組みも必要です。

アトミに意思決定して執行

シツプを發揮してスピー

んが、時にはいリターン

共通語として必要です。こ

れから生きていく変化を自

分です。自分も必要です。

自分の言いたいこと、思っ

てくれるのも学生のためを

研究者と自覚している。そ

ういった先生方に、「大学は

教育機関である」という

意識を持ってもらわねば

なりません。



まったわけです。幸い、わが明海大学にはこれに対応できる基礎があるのではないかということからこの学部の開設を進めたわけです。基礎というのは、外国語学部があること、それから教育総合センターにおいて、ノーシャル・デベロップメント・プログラム、パーソナル・デベロップメント・プログラムが実施されている。プログラムが実施されている。ホスピタリティに関して、サビスでも基礎があった。それから大学のロケーションです。ね。東京アイズニランドに隣接して国際的な場所であって、ホスピタリティ・あり、成田と羽田のちょうど真中に位置している。出張メッセ、お合場などのいうことになりました。富田：少し補足しますと、観光施設なども控えている。浦安市自体もそれを後援している。そういう面から社変化に対応していくためにはこの学部をすすめることとが適當ではないかと、開設を決断しました。

なせホスピタリティ・学問として教えないですね。いかに金を儲けるかとか、光だけでもよかつたのでいかに帳簿処理をするか、そういうことは教えてくれ航空、ホテル、エンターテインメントなどが対象になる切な部分を左右するキーワードが「ホスピタリティ」で、おられたのは、それにとどまらない、もっと広く一般の顧客の満足を目指すというサビス産業全体に

及ぶことでした。サビスで、ホスピタリティに関して、基礎があった。それから大学のロケーションです。ね。東京アイズニランドに隣接して国際的な場所であって、ホスピタリティ・あり、成田と羽田のちょうど真中に位置している。出張メッセ、お合場などのいうことになりました。富田：少し補足しますと、観光施設なども控えている。浦安市自体もそれを後援している。そういう面から社変化に対応していくためにはこの学部をすすめることとが適當ではないかと、開設を決断しました。

が明海大学にはこれに対応できる基礎があるのではないかということからこの学部の開設を進めたわけです。基礎というのは、外国語学部があること、それから教育総合センターにおいて、ノーシャル・デベロップメント・プログラム、パーソナル・デベロップメント・プログラムが実施されている。プログラムが実施されている。ホスピタリティに関して、サビスでも基礎があった。それから大学のロケーションです。ね。東京アイズニランドに隣接して国際的な場所であって、ホスピタリティ・あり、成田と羽田のちょうど真中に位置している。出張メッセ、お合場などのいうことになりました。富田：少し補足しますと、観光施設なども控えている。浦安市自体もそれを後援している。そういう面から社変化に対応していくためにはこの学部をすすめることとが適當ではないかと、開設を決断しました。



増岡由弘常務理事

増岡：これはすばらしい発想ですね。富田：歯学部もありまして、ホスピタル(病院)の語源ですからね。高倉：新学部の設置は、実学志向の一つの現れといっ

て面白いと思います。美字志向というのは別のスタイルでは生き残っていくけないですから。大自体も強く生きる能力、組織力を持たないと、良い経営が盤の上に、教育の花が咲くというところも、みんなアルな知識の体得、ホスピタリティ・マインドも然りです。

富田：どの学部もずっと今を与えることはできないのスタイルで、問題解決能力を持って人間育成という言葉を言うのと、問題解決能力を持って人間育成という力があると思います。富田：どの学部もずっと今を与えることはできないのスタイルで、問題解決能力を持って人間育成という力があると思います。



高倉翔学長

ホスピタリティ・マインドあふれる明海大



鈴木陽夫教育後援会副会長

富田：最後に教育後援会へお願いすることもあるかも知れませんが、お聞きください。高倉：私は教育後援会の総会や地区懇談会など、できるだけ参加してみなさんと



富田：ご父母のみなさんは基本的にスリークホルターです。大学側が強く要求するつもりはありますが、お子さんたちが、お聞きください。高倉：最後に教育後援会へお願いすることもあるかも知れませんが、お聞きください。高倉：私は教育後援会の総会や地区懇談会など、できるだけ参加してみなさんと

富田：この地区懇談会に、お聞きください。高倉：私は教育後援会の総会や地区懇談会など、できるだけ参加してみなさんと

就職のサポートを お願いします

富田：それがいちばん父母の望むことだと思います。知的財産の贈与は免税です。富田：今日はどうもありがとうございました。2004年12月13日、明海大学法人企画室大会議室にて)

富田：就職したい学生のお話をしたいと考えています。富田：精神的なサポートはぜひお願いしたいですね。富田：言葉は悪いかも知れませんが、大学はご両親から教育を委託されている。富田：言葉は悪いかも知れませんが、大学はご両親から教育を委託されている。富田：言葉は悪いかも知れませんが、大学はご両親から教育を委託されている。

富田：就職したい学生のお話をしたいと考えています。富田：精神的なサポートはぜひお願いしたいですね。富田：言葉は悪いかも知れませんが、大学はご両親から教育を委託されている。富田：言葉は悪いかも知れませんが、大学はご両親から教育を委託されている。

富田：就職したい学生のお話をしたいと考えています。富田：精神的なサポートはぜひお願いしたいですね。富田：言葉は悪いかも知れませんが、大学はご両親から教育を委託されている。富田：言葉は悪いかも知れませんが、大学はご両親から教育を委託されている。